

大学の学際課程と外国語カリキュラム — 事例研究ノート —

田 中 慎 也

Foreign Language Teaching Programs in Some Interdisciplinary Faculties — A Case Study —

Shinya Tanaka

The Ministry of Education amended the Standards for the Establishment of Universities on July 1, 1991.

The amendment to the Ministry regulations this time around is not a mere revision of certain provisions, but rather a drastic one affecting the fundamentals of our higher education system.

The first notable change in the regulations is abolishment of the clear distinction among the four required course subjects, which have been classified, according to their content as foreign language, health and physical education, general education and specialized education.

The second is the introduction of a self-evaluation mechanism.

The third is a revision of the academic credit-earning system and related to that is the commencement of a degree-granting mechanism.

Relating to foreign language instruction, there have been a variety of foreign language teaching programs, such as summer intensive courses, which are often connected with international exchange programs, certificate examination system and so on.

This study reports on the revision of foreign language teaching programs in some interdisciplinary faculties.

§ 序

平成3年7月1日より新大学設置基準が施行された。その改正点の主なものの第一は、各大学が自らの責任において教育研究の不断の改善を図ることを促すための、自己点検・評価の導入(第二条)であり、第二は、各大学で多様な特色のあるカリキュラム設計が可能となるよう、授

業科目、卒業要件、教員組織等に関する規定の簡素化・弾力化がはかられたことである。即ち、開設授業科目区分の廃止、卒業に必要な総単位数（第三十二条）を除いて、科目区分の最低修得単位数の廃止、必要専任教員数に係わる科目区分の廃止、教員の専兼比率、単位の計算方法の改正（第二十一条）等があげられる。第三は、生涯学習等に対応した履修形態の柔軟化である。これには、いわゆるパート・タイム履修の科目登録制・コース登録制の導入（第三十一条）、昼夜開講制の制度化（第二十六条）、大学以外の教育施設等における学修成果の単位認定（第二十九条及び文部省告示第六十八条）等が含まれる。その他、短期大学、高等工業専門学校の卒業生等で、大学の科目登録制等により継続して学修し、一定の要件を満たした者、及び大学以外の教育施設（例 大学校）等の修了者に対する学位授与の道を開くための学位授与機構の創設が上げられる。これは、従来大学のみにも与えられていた学位授与権を、大学以外の機関にその権限の一部を委譲したことになる。

このように今回の省令の改正は、大学教育の大規模かつ抜本的な改革を含むものであった。従って、従来「最低一外国語八単位必修」という法的枠組みの中で行われてきた大学の外国語教育も、好むと好まざるとにかかわらず大きな転換期に立たされている。

今後の大学教育は「大学はその理念・目的に即し、高等教育機関にふさわしい水準・内容の教育課程を維持しなければならない。教育課程は、大学の理念・目的を具体化するものであり、いわば大学の生命である。従って、大学・学部について具体的かつ明確に定められた理念・目的を実質的に実現するために、もっとも妥当で適切な教育課程が、体系的に編成されているかどうか、さらにそれぞれの学部等の専攻に係る専門の学芸について高度の知識を教授するとともに、幅広く深い教養と総合的判断力をもった豊かな人間性を涵養するよう配慮されている¹⁾」ことが求められているのであり、これまでのような、学部の特性や違いに係りのない大学の外国語教育は厳しくチェックされるであろう。

I. 教育政策としての大綱化がもたらす外国語教育への影響・要望

教育政策としての大綱化が、どのような影響・要望を外国語教育にもたらすかについては次の3点が最も重要と考えられる。(1)授業科目から教育課程へ(2)学生定員から収容定員へ(3)卒業の要件及び学士から卒業の要件等へ、である。(1)からはカリキュラムの多様化(2)は学生の多様化、(3)は高等教育機関間相互乗り入れの多様化を生み出すことが予測される。そしてカリキュラムの多様化は、大学・学部教育の中での外国語教育の必然性の問い直しと、外国語教育目的の明確化が一層求められるであろうし、また、学生の多様化はそれに対応したきめ細かな教材の研究・開発(カレッジ・テキストの開発、統一教材の開発・導入)や、教育指導内容の充実強化(シラバス導入、補講の義務付け等)、より効率を高めるための教育方法の改善促進(セメスター制の導入、45分授業の導入、ティーム・ティーチングの導入、クラス・サイズの適正化、外国人教員の増員、外国語教育機器・設備の充実、海外留学・研修制度の強化等)が一層求められるであろう。(3)の関連からは単位制度の現状見直し、外注単位の導入、語学研修からコース学修等が問題となろう。

そこで本稿は、学際カリキュラムの事例を若干考察し、大綱化後の外国語教育改革動向分析に際しての基礎的比較資料作成の試みとしたい。

なお、資料としては、当該大学学部の1992年度履修便覧、学生便覧等²⁾を使用した。

II. 事例

(A)慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部

(1)外国語教育の目的

実践的な言語運用能力の養成

(2)卒業要件

表 1³⁾

| 外国語科目 (必修) | 1 学年 | | 2 学年 | | 3 学年 | | 4 学年 | | 卒業に必要な単位 |
|----------------|---|-----|---|-----|-------------------------------|-----|------|-----|----------|
| | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | 春学期 | 秋学期 | |
| | インテンシブコース 1 か国語12単位 | | | | 別の外国語 (教養外国語) 1 か国語 4 単位以上 | | | | 16単位以上 |
| 保健体育科目 (必修) | 保健衛生 1 単位 体育Ⅰ 1 単位 体育Ⅱ 1 単位 | | 体育Ⅲ 1 単位以上 | | | | | | 4 単位以上 |
| 一般教育科目 | 人文科学分野 } 各分野から 社会科学分野 } 1 科目以上 自然科学分野 } を履修 ただし、1 学年での総合講座 (人文) 2 単位 情報処理言語Ⅰ (自然) 4 単位の 履修を含む | | | | | | | | 28単位以上 |
| 専門教育科目 | 両学部共通専門科目 16単位以上 ただし、 総合政策学部は 総合政策学 2 単位 環境情報学部は 環境情報学 2 単位 (各必修) を含む | | | | | | | | 76単位以上 |
| | | | 学部内専門科目 52単位以上 ただし、学部内専門基礎科目と各自が 選択するコース系列科目の合計24単位 以上を含む | | | | | | |
| | | | 学部内専門基礎科目 | | | | | | |
| | | | 各コース系列科目 研究会 (必修) 各学期 1 科目 合計 8 単位 | | | | | | |
| 合計 | 30単位以上 | | 30単位以上 | | | | | | 124単位以上 |

(3)科目区分名と単位数

自然言語という科目群の中に外国語科目は入れられ、さらに外国語科目は以下の3つに分けられている。

- ①インテンシブコース (1 学年秋学期～2 学年秋学期) 1 か国語12単位
- ②教養外国語 (3 学年以上またはインテンシブコース修得者) 別の 1 か国語 4 単位
- ③中・上級 (自由科目、インテンシブコース修得者)

(4)総単位数に対する外国語関連科目単位数の比率

16/124(12.9%)

(5)開講外国語科目数と種別

11外国語(英語, 仏語, 独語, 中国語, 朝鮮語, マレー語, インドネシア語, ロシア語, スペイン語, アラビア語, 日本語)

(6)インテンシブコース各国語定員数

朝鮮語(60) マレー・インドネシア語(30) 中国語(90) フランス語(120) ドイツ語(120)
英語(480)

(7)学年配当及び履修方法

表1参照

(8)専任教員数

朝鮮語2(2) マレー・インドネシア語1 中国語4(2) 独語4(1) 英語13(7) フランス語
4(1) 日本語3 合計31名 注:()内の数はnative.

(9)教育組織及び教育方法

(教育組織)

語学を担当する教員はすべて「言語コミュニケーション研究所」に所属し語学教育のカリキュラムを立案, 実施。

(教育方法)

朝鮮語, マレー・インドネシア語, 中国語, ドイツ語, フランス語, 英語のうちから1か国語だけを選ばせ集中的に学習させる。授業時間は50分授業とし, それを週8~10回行う。そのうち少なくとも3分の1の授業は外国人教員が担当する。担当の日本人教員が外国人教員と一緒に、各時間ごとに「知識の習得→練習→実践」という流れを作り出す。1クラスの学生数は約30名。実践的な授業をするために各教室にはビデオなどの外国語学習設備を整備。コンピュータによる学習(CAI)も一部で実施。インテンシブ授業は1年の秋学期から開始。語種選択にさいして「総合講座 諸国語概説」を履修させる。英語選択志望者には実力テスト(TOEFL institutional)を実施。英語の授業はレベル別に行い, 原則として英語で行う。英語の授業時間は, 一年次秋学期に8時間, 二年次春学期に10時間, 二年次秋学期に6時間。各国語ごとの研修旅行実施。

(B)桜美林大学国際学部

(1)外国語科目の位置付け

語学は, 地域研究などインターナショナル・スタディーを学習する上で, 授業やコミュニケーションのために必要な技術・道具であり, また学習の対象となる地域の文化・社会の文化的枠組みとして研究資料そのものともなるので, 外国語科目は準専門科目として扱う。

(2)卒業要件

表 2⁴⁾

| 科目分野 | | 履修の方法 | 単位数 |
|-------------------------|--------|-------------|------------|
| 一般教育科目等 | 一般教育科目 | 人文科学 | 1科目(4単位)以上 |
| | | 社会科学 | 1科目(4単位)以上 |
| | | 自然科学 | 1科目(4単位)以上 |
| | | 総合科目B | 自由選択 |
| | | 総合科目A | 必修 |
| | 外国語科目 | 英語(E. L. P) | 必修 |
| | | 第二外国語 | 選択必修 |
| | 保健体育科目 | 体育理論 | 必修 |
| | | 体育実技 | 必修 |
| | 専門教育科目 | 基礎専門科目 | 必修および選択 |
| 専攻コース専門科目 | | 必修および選択 | |
| 基礎専門科目, コース専門科目, 関連専門科目 | | 選択 | |
| 履修単位合計(卒業要件) | | | 134 |

(3)総単位数に対する外国語関連科目単位数の比率

24/134(17.9%)

(4)開講外国語科目数と種別

8 外国語(英語, 中国語, ロシア語, コーリア語, スペイン語, フランス語, ドイツ語, 日本語)

(5)外国語科目の履修と学年配当

フレッシュマン・イングリッシュ(F.E)Ⅰ(春学期)6単位及びフレッシュマン・イングリッシュⅡ(秋学期)6単位, 計12単位を毎週6回, 必修科目として1年次に履修する。クラスはすべて外国人教員チームが担当する。

ソフォモア・イングリッシュ(S.E)Ⅰ(春学期)4単位及びソフォモア・イングリッシュⅡ(秋学期)4単位, 計8単位は2年次に毎週4回, 必修科目として履修。

(6)外国語センター

一般授業のほかに, 外国語センターで, 英語, 中国語の特別講座を設けている。

(7)放送大学による履修

第二外国語の単位を, 放送大学の該当科目の単位修得で振り替えることができる。

表 3⁵⁾

| 本学の科目 | | 放送大学の科目 | |
|--------------|------|-------------------------------|-------|
| 中国語Ⅰ (英文) | 4 単位 | 「中国語Ⅰ」 2 単位 + 「中国語Ⅱ」 2 単位 | (ラジオ) |
| 中国語 (国際) | 4 単位 | | |
| ロシア語Ⅰ (英文) | 4 単位 | 「ロシア語Ⅰ」 2 単位 + 「ロシア語Ⅱ」 2 単位 | (ラジオ) |
| ロシア語 (国際) | 4 単位 | | |
| スペイン語Ⅰ (英文) | 4 単位 | 「スペイン語Ⅰ」 2 単位 + 「スペイン語Ⅱ」 2 単位 | (ラジオ) |
| スペイン語 (国際) | 4 単位 | | |
| フランス語Ⅰ (英文) | 4 単位 | 「フランス語Ⅰ」 2 単位 + 「フランス語Ⅱ」 2 単位 | (テレビ) |
| フランス語 (国際) | 4 単位 | | |
| ドイツ語Ⅰ (英文) | 4 単位 | 「ドイツ語Ⅰ」 2 単位 + 「ドイツ語Ⅱ」 2 単位 | (テレビ) |
| ドイツ語 (国際) | 4 単位 | | |
| 中国語Ⅱ (英文) | 4 単位 | 「中国語Ⅲ」 2 単位 + 「中国語Ⅳ」 2 単位 | (ラジオ) |
| 上級中国語 (国語) | 4 単位 | | |
| フランス語Ⅱ (英文) | 4 単位 | 「フランス語Ⅲ」 2 単位 + 「フランス語Ⅳ」 2 単位 | (ラジオ) |
| 上級フランス語 (国際) | 4 単位 | | |
| ドイツ語Ⅱ (英文) | 4 単位 | 「ドイツ語Ⅲ」 2 単位 + 「ドイツ語Ⅳ」 2 単位 | (ラジオ) |
| 上級ドイツ語 (国際) | 4 単位 | | |

(8)ルコネッサンス・ジャパン (RJ) の履修

外国人留学生用に開設されるルコネッサンス・ジャパン (RJ) のプログラムは、日本人学生も履修することができる。日本地域研究コースの単位となる。

表 4⁶⁾

| | | | | | | | |
|--|-------------------------------|---|---|--|--|---|--|
| ル コ ネ ッ サ ン ス ・ ジ ャ パ ン | History of Japan | 4 | 秋 | | | 国 | |
| | Cultural Studies on Japan | 4 | 秋 | | | 国 | |
| | Japanese Politics | 4 | 秋 | | | 国 | |
| | Japanese Economy | 4 | 秋 | | | 国 | |
| | Japanese Society | 4 | 秋 | | | 国 | |
| | Japanese Education | 4 | 秋 | | | 国 | |
| | Japanese Management | 4 | 秋 | | | 国 | |
| | Modern Japanese History | 4 | 春 | | | 国 | |
| | Japanese Literature | 4 | 春 | | | 国 | |
| | Japanese Intellectual History | 4 | 春 | | | 国 | |
| | Japanese Art | 4 | 春 | | | 国 | |
| | Women in Japanese Society | 4 | 春 | | | 国 | |
| | Studies on Contemporary Japan | 4 | 春 | | | 国 | |
| | Fieldwork in Japanese Studies | 2 | 春 | | | 国 | |

(9)国際交流プログラム

海外留学の提携校：アメリカ14校，イギリス5校，カナダ2校

(C)亜細亜大学国際関係学部

(1)英語教育の目的及び目標

入学以前に身につけた英語力を更に伸ばし、その運用力を高めていくことで、国際理解の基礎を養うこと、他国の人々との相互理解を目指すこと。その目的を達成するために、「聴く」(hearing)「話す」(speaking)、「読む」(reading)、「書く」(writing)の基本4技能を総合的に身につける必要がある。特に英語を「聴き、話せる」学生を養成することを大きな目標としているので、1・2年次は「聴き、話す」ことにウエイトがかけられる。3・4年次には英語の

新聞、雑誌が読めるように、また自分の意見を論理的に書いて表現するように、選択科目が配置されている。

(2)卒業要件

表5⁷⁾

| 授業科目区分 | | 必要単位数 | | 内容 | |
|----------------|---------|--------------|---|------------------------------------|--|
| 一般 教育 科目 | 人文分野 | A区分 (8単位) | (12単位) | 36単位 | ①A区分から8単位、B区分から4単位を履修する方法 ②A区分4単位とB区分4単位で総合科目4単位を履修する方法かA区分8単位と総合科目4単位を履修する方法 ※①・②どちらかの方法で単位を修得すること。 |
| | | B区分 (4単位) | | | |
| | 社会分野 | (12単位) | ①この分野から12単位を履修する方法 ②この分野から8単位と総合科目4単位を履修する方法 ※①・②どちらかの方法で単位を修得すること。 | | |
| | 自然分野 | (12単位) | 同上 | | |
| 総合科目 | | | | ③上記②の方法により履修すれば最高12単位まで卒業単位に算入できる。 | |
| 外国語科目 | 英語 | 12単位 | | | |
| 保健 体育 科目 | 体育講義 | | 2単位 | | |
| | 体育実技 | | 2単位 | | |
| 専門 教育 科目 | 共通基礎科目群 | 必修 | 20単位 | A, B, C, それぞれの区分ごとに必要単位をとること。 | |
| | | 選択必修A | 6単位 | | |
| | | B | 8単位 | | |
| | C | 4単位 | | | |
| | 国際協力科目群 | 自由選択A | 10単位 | | |
| 地域研究科目群 | 自由選択B | 4単位 | いずれかの地域を選択し4単位を修得すること。 | | |
| 国際関係科目群 | 自由選択C | 20単位 | 8単位 + 24単位 | } どちらかの組合せにより兩科目群で合計32単位を修得すること。 | |
| 地域言語科目群 | 自由選択D | 12単位 | | | |
| 合計 | | 136単位 | | | |

(3)総単位数に対する外国語関連科目単位数の比率

12/136(8.8%)

(4)履修方法

表 6⁸⁾

| | 英語 | | | | | その他の外国語 | | | 科目数及び単位数 |
|------|------|-----|-----|----|----|---------|----|---|---------------|
| 4年次 | | | | | | | | | |
| 3年次 | | | | X | IX | VI | | | |
| 2年次 | VIII | VII | VI | V | IV | III | IV | V | 3科目6単位 |
| 1年次 | | | III | II | I | I | II | | 3科目6単位 |
| 卒業要件 | | | | | | | | | 合計 6科目12単位 |

(5)授業形態と設置科目

① 1年次「フレッシュマン・イングリッシュ」

月曜日から金曜日まで毎日45分の授業。週5回の授業のうち、4回は外国人教師が担当し、1回は日本人教師が担当。この他、日本人教師担当の90分授業の英語Ⅲがある。

② 2年次

国際関係学部生は全員アメリカ派遣留学に参加する。派遣先の大学で修得した英語単位を「英語Ⅳ」「英語Ⅴ」「英語Ⅵ」「英語Ⅶ」に振り替え認定。

③ 3・4年次

随意科目で英語が継続的に学習できる。科目には、「英語Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ」、「英会話」、「新聞英語A・B」、「放送英語A・B」がある。

(6)英語教育の具体的方針

- ①小人数制②出席重視③1年生の45分週5回授業プラス90分週1回④外国人教師の積極的採用
⑤LLの活用⑥正規の授業以外にも、LL個別自主学习、英語検定、TOFEL等の活用⑦大量海外派遣留学⑧交換・派遣留学生制度。

(7)開講随意科目

英会話Ⅰ～Ⅲ、英語Ⅷ～Ⅹ、放送英語A・B、新聞英語A・B、中国語会話、時事ドイツ語、スペイン語会話Ⅰ～Ⅱ、時事スペイン語、ロシア語会話Ⅰ～Ⅲ、時事ロシア語：中国語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語Ⅰ～Ⅵ、フランス語Ⅰ～Ⅵ、スペイン語Ⅰ～Ⅳ、ロシア語Ⅰ～Ⅳ、インドネシア語Ⅰ～Ⅳ、ポルトガル語Ⅰ～Ⅱ、モンゴル語Ⅰ～Ⅱ、韓国語Ⅰ～Ⅱ、アラビア語Ⅰ～Ⅳ、ヒンディー語Ⅰ～Ⅱ、タイ語Ⅰ～Ⅳ

(8)専門外国語

地域言語科目群中の5地域にはそれぞれの地域ごとに地域言語が指定されている。6か国語の中から1か国語を選択し、2年次後期から履修。

国際関係科目群と地域言語科目群についての履修方法には2つあり、

- ①国際関係科目群から20単位と地域言語科目群（Ⅰ～Ⅵ）から6科目12単位の合計32単位を履修。
②国際関係科目群から8単位と地域言語科目群（Ⅰ～Ⅶ）から12科目24単位の合計32単位を履修。

(9)開講外国語科目数と種別

14外国語（英語、日本語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、ポルトガル語、モンゴル語、韓国語、アラビア語、ヒンディー語、タイ語）

(10)留学（アメリカ派遣留学）

表7⁹⁾

*AUAP'92 前期日程表

| | 西ワシントン大学 | 中央ワシントン大学 | 東ワシントン大学 | オレゴン州立大学 | ボイジー州立大学 |
|----------------------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|----------------|
| 日本出国 | 3/30(月) | 3/30(月) | 3/29(日) | 3/29(日) | 3/6(金) |
| 派遣先大学着 | 3/30(月) | 3/30(月) | 3/29(日) | 3/29(日) | 3/6(金) |
| 説明会 | 3/31(火)~4/4(土) | 3/30(月)~4/2(木) | 3/30(月)~4/3(金) | 3/30(月)月, 31(火) | 3/7(土)~11(木) |
| 春学期始業 | 4/3(金) | 4/3(金) | 4/6(月) | 4/1(木) | 3/12(木) |
| 休日 (Memorial Day) | 5/25(月) | 5/25(月) | 5/25(月) | 5/25(月) | 5/25(月) |
| 春学期終了 | 6/10(木) | 6/8(月) | 6/12(金) | 6/12(金) | 5/15(金) |
| 学期末試験 | 6/4(木), 5(金) | 6/9(火)~11(木) | 6/11(木), 12(金) | 6/8(月)~12(金) | 5/14(木), 12(金) |
| ブレイク | 6/11(木)~22(月) | 6/11(木)~23(火) | 6/13(土)~21(日) | 6/13(土)~21(日) | 5/16(土)~25(月) |
| 夏学期始業 | 6/23(火) | 6/24(水) | 6/22(月) | 6/22(月) | 5/26(火) |
| 休日振替 (Independence Day) | 7/3(金) | 7/3(金) | 7/3(金) | 7/3(金) | 7/3(金) |
| 夏学期終了 | 8/19(木) | 8/14(金) | 8/21(金) | 8/18(火) | 7/29(木) |
| 最終試験 | 8/17(月)~19(木) | 8/17~19(木) | 8/19(水)~21(金) | 8/12(木)~14(金) | 7/27(月)~29(木) |
| アメリカ出国 | 8/25(火) | 8/25(火) | 8/24(月) | 8/24(月) | 8/1(土) |
| 帰国 | 8/26(水) | 8/26(水) | 8/25(火) | 8/25(火) | 8/2(日) |

開設科目は英語、一般教育科目、体育実技の3分野にわたる。振り替え科目と単位数は、英語4科目8単位（英語Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶとして認定）、一般教育科目2科目8単位体育実技1科目1単位、合計7科目17単位。

(D)青山学院大学国際政治経済学部

(1)卒業要件

科目区分が、総合教養科目、国際コミュニケーション科目、学科科目に分けられているのが特徴的である。

国際コミュニケーション科目は、A群（英語）科目必修22単位、B群（英語以外の外国語）科目必修6単位、C群（言語とコミュニケーション）科目選択必修4単位からなる。卒業に必要な最低単位数は以下のとおり。

表 8¹⁰⁾

| 科目の種別 | | 必選の別 | 国際政治学科 | 国際経済学科 | 国際経営学科 | |
|---------------------------------|---------|------|----------------------------|--------|--------|----|
| 総合 教養 科目 | 人 文 | 選択必修 | 8 | 8 | 8 | |
| | 社 会 | 選択必修 | 8 | 8 | 8 | |
| | 自 然 | 選択必修 | 8 | 8 | 8 | |
| | 総 合 科 目 | 必 修 | 4 | 4 | 4 | |
| | 保健体育 | 理論 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| | | 実技 | 必修 | 2 | 2 | 2 |
| 小 計 | | | 32 | 32 | 32 | |
| ケ ー シ ョ ン 科 目 | A 群 | 必 修 | 22 | 22 | 22 | |
| | B 群 | 必 修 | 6 | 6 | 6 | |
| | C 群 | 選択必修 | 4 | 4 | 4 | |
| | 小 計 | | | 32 | 32 | 32 |
| 学 科 科 目 | A 群 | 必 修 | 32 | 32 | 28 | |
| | B 群 | 選択必修 | 32 | 32 | 36 | |
| | C 群 | 選択必修 | 24 | 24 | 24 | |
| | D 群 | | | | | |
| 小 計 | | | 88 | 88 | 88 | |
| 演 習 科 目 | | * | 演習科目の取得単位は学科科目のB群の単位に算入される | | | |
| 総 計 | | | 152 | 152 | 152 | |

(2)総単位数に対する外国語関連科目単位数の比率

$$32/152(21.1\%)$$

(3)開講外国語科目数と種別

8 外国語 (英語, 日本語, 中国語, 韓国語, フランス語, ドイツ語, スペイン語, ロシア語)

(4)学年配当

1 年次英語12単位 B 群科目 4 単位, 2 年次英語10単位 B 群科目 2 単位。C 群科目は 2・3 年次に配当。

(5)専門外国語科目

学科科目 A 群に外国書講読 A が 2 年次必修 4 単位。B 群の外国書講読 B は 3・4 年次選択必修 4 単位。

(E)立命館大学国際関係学部

(1)3つの学部教育目標

- ①政治・経済・社会・文化の諸領域にわたる総合的学術的な研究と教育の推進。
- ②日本を基点とするグローバルな視点をもった地域研究の展開。
- ③国際社会で役立つ総合的語学力の涵養。

(2)卒業要件

表9¹¹⁾

| | 分野及び部門 | 最低必要単位数 | 合計単位数 | | |
|---------|---|-------------------|--------|-------------|----------------|
| 一般教育科目 | 人 文 科 学 分 野 | 8 単位 | 計24単位 | 合計 138単位 | |
| | 社 会 科 学 分 野 | 8 単位 | | | |
| | 自 然 科 学 分 野 | 8 単位 | | | |
| | 全 分 野 | | | | |
| 外国語科目 | 第 1 外 国 語 | 8 単位 | 計16単位 | | |
| | 第 2 外 国 語 | 8 単位 | | | |
| 保健体育科目 | 講 義 | 4 単位 | 計 6 単位 | | |
| | 実 技 | 2 単位 | | | |
| 専 門 科 目 | 専 門 共 通 科 目 | 20単位 | 計92単位 | | |
| | 専 門 外 国 語 科 目 | 12単位 | | | |
| | 固 有 専 門 | A 群 政 治 ・ 法 律 部 門 | | | 自コース部門 20単位 |
| | | B 群 経 済 ・ 経 営 部 門 | | | 他コース部門 16単位 |
| | | C 群 文 化 ・ 社 会 部 門 | | | 計36単位 |
| | 地 域 研 究 科 目 | 8 単位 | | | |
| | 自由選択科目 (固有専門科目A・B・C群及び 地域研究科目のうちから選択) | 4 単位 | | | |
| | 基 礎 演 習 | 4 単位 | | | |
| 演 習 | 8 単位 | | | | |

(3)総単位数に対する外国語関連科目単位数の比率

16+12/138(20.3%)

(4)学年配当と履修方法

1 年次英語Ⅰ～Ⅲ 6 単位，第 2 外国語Ⅰ～Ⅱ 4 単位。2 年次英語Ⅳ 2 単位，第 2 外国語Ⅲ～Ⅳ 4 単位を履修。

(5)専門外国語科目

科目配当と履修方法

表10¹²⁾

| 2 回 生 | | 3 回 生 | | 要卒単位 |
|---------------------|-----|-------------------|-----|----------|
| 科 目 | 単 位 | 科 目 | 単 位 | |
| 英 語 文 献 講 読 | ④ | フ ラ ン ス 語 文 献 講 読 | ④ | 12単位選択必修 |
| 専 門 英 語 Ⅰ ・ Ⅱ ・ Ⅲ | 各④ | ド イ ツ 語 文 献 講 読 | ④ | |
| 専 門 フ ラ ン ス 語 Ⅰ ・ Ⅱ | 各④ | 中 国 語 文 献 講 読 | ④ | |
| 専 門 ド イ ツ 語 Ⅰ ・ Ⅱ | 各④ | ス ペ イ ン 語 文 献 講 読 | ④ | |
| 専 門 中 国 語 Ⅰ ・ Ⅱ | 各④ | ロ シ ア 語 文 献 講 読 | ④ | |
| 専 門 ス ペ イ ン 語 Ⅰ ・ Ⅱ | 各④ | ア ラ ビ ア 語 Ⅱ | ② | |
| 専 門 ロ シ ア 語 Ⅰ ・ Ⅱ | 各④ | 朝 鮮 語 Ⅱ | ② | |
| ア ラ ビ ア 語 Ⅰ | ② | | | |
| 朝 鮮 語 Ⅰ | ② | | | |

- 8) (M 4) p. 21
- 9) (M 4) p. 31
- 10) (M 5) p. 179
- 11) (M 6) p. 72
- 12) (M 6) p. 76
- 13) (M 6) p. 74